立山町史

上巻

立山町

刊行のことば

わたくしたちの祖先は、立山の雄姿を心のよりどころとし、常願寺川、白岩川、栃津川などの清流を命の糧として営々と努力し、美しい山野を今日に残してくださいました。わたくしたちは、このうるわしい自然と環境を真心をもって子孫に伝えねばなりません。

この意味において、今日までの史実を明らかにし、将来の発展に資したいと念願して、昭和四十三年、当時の町長中田治重氏のもとに、立山町史編さんが企画されました。その後約十年に近い年月を重ね、ここに、立山町史『上巻』が発刊される運びとなりましたことは、まことに喜びにたえません。

立山町は、霊峰立山を仰ぎ、幾多の移りかわりを経て現在に至りました。そこには立山信仰があり独自の山岳信仰が発展してきました。

加賀藩主をはじめ北陸に関係する部将たちも、立山に対して敬けんな尊崇の気持ちをあらわしており、立山を中心とした独自の文化がうかがわれます。

この立山信仰についての詳述は本書の特長の一つであろうかと思います。その他この町史には立山町の地形、地質からはじまり先史時代、古代を経て中世までの主な事項についての叙述がおさめられています。なお近世以後の記録は『下巻』にまとめて発行する予定であります。

本書の編さんにあたっては、町内外の郷土史に造詣の深い方々に、史料の収集、調査をお願いし、当町出身の富山大学名誉教授、文学博士高瀬重雄先生に監修をお願いいたしました。

それぞれにたいへんご労苦をおかけいたしましたことを、ここに深く感謝いたします。

また、貴重な資料を提供され、ご協力いただきました方々に対しまして心からお礼を申しあげます。

立山町史刊行にあたり、心静かに先人のご苦労に感謝のまことを捧げ、激動する現代社会を生きぬき、二十一世紀への立山町建設の心の糧として役立てゝいただきますことを、心から期待するものであります。

昭和五十二年七月

立山町長　堀田三五郎

監修者のことば

山は、人の心のふるさとであった。山麓の村里に、生産と生活の場が設定されたときでも、人の祖霊は、山のいただきに鎮座すると考えられた。

山をうしはく神が、源を山に発する川筋を経て、田の面にくだるときは、花咲く春。田の神が、収穫を終えて山のいただきに帰るときが秋。里の人びとは、神を送迎し、人生の安寧をいのって、春秋のお祭りを行なった。

仏教がひろまると、山中には果てしない胎蔵界や金剛界が展開していると考えられるようになった。地獄や極楽も、山中にこそ所在すると考えられた。山林の間を遊行し、滝の水に身をきよめ、岩窟に夜をあかし、山頂によじのぼると、そこではじめて如来の来迎を仰ぐことができるといわれた。このようにして神仏習合の山岳宗教が成立したのであった。

さて越中の国の立山は、そうした山岳宗教の山々のなかでも、とりわけ霊験のあらたかな霊山として有名であった。雄山の神と阿弥陀の信仰とが結合され、布橋灌頂その他の特殊な宗教儀礼の発達がみられた山である。山中地獄と山中浄土がともに設定されていた山でもある。

この山に源を発する常願寺川の東にひろがる扇状地の上に、立山町の街と村とがある。立山町の歴

史と文化の概略を、まとめて町史を編纂しようという計画が建てられ、不肖わたくしにその監修を依頼されたのは、数年前のことである。わたくしは立山町に生をうけたものであるから、微力をもかえりみず、この大任をおひきうけした。そして踏査と調査とに協力し、また度重なる会議にも参加した。あるときは、山城の跡をたずねて、まむしの多い山路を登った。また古い窯の跡をたずね、条里の遺構を求めて、雨の中をさまよったこともある。さらにあるときは、わたくし自身の祖先の仁右衛門が、元和三年（一六一七）に開鑿した仁右衛門用水のほとりに立って、その浩々たる碧水が、いまも広大な美田を灌漑している様子をみた。岩峅寺・芦峅寺その他の文書・記録を調べさせていただいたこともちろんである。

町に産業が発達して、人びとのくらしの繁栄をみるのは楽しいことであった。わたくしは働く故旧の姿に接しては、なつかしさに堪えずして、声をかけた。でも悲しいことには、稚児塚古墳のあの杉の大木が、年々生気をうしなって、ついに枯死してしまった。少年の日にも仰ぎみた樹齢数百年の立山杉であった。

本書編纂のさなか、昭和四十六年に、黛　敏郎氏の作曲にかかる「交響詩立山」が完成した。それは三部よりなる交響曲であるが、氏のお話によれば、とくに第三部には、過去から現在・未来へと続く歴史の歩みが、立山にどういう足跡をのこしたかを表現したかったということであった。この曲の発表演奏をきいたとき、音楽にはうといわたくしも、深い感動をおぼえずにはいられなかった。高貴な山、雄々しい山、そして永遠の姿の立山が、こうした美しい表現を得たことを、心から喜んだ。

しかし、それにひきかえ、われらの編集した立山町史は、あるいは不測の雑音などもふくまれていはしまいか。不協音はないだろうか。わたくしは関係各位にお願いして、最善をつくしていただいた心算ではあるが、それでもなお十分というに至らなかったとすれば、今後の改訂にまつより他はないと思う。

わたくしの生家の庭隅に、一本の椿があって、春の訪れとともに花をつける。安政のころ立山町に生れ、立山町でなくなったわたくしの祖母の植えておいた椿である。この立山町史も、祖母の植えた椿のように、末永く町民の方々に愛され、町民によって改訂されてゆくことを祈りたい。

昭和五十二年六月三日

富山大学名誉教授
文学博士　瀬川重雄

立山町史上巻　目　次

口　絵
刊行のことば
監修者のことば
立山町の地形・地質
位置及び地形……1
立山町の位置
地形のあらまし
氷河地形
山崎圏谷
熔岩台地・カルデラ
地　質……8
飛騨変成岩
黒雲母花コウ閃緑岩質片麻岩

結晶質石灰岩

船津花コウ岩類

下之下型花コウ閃緑岩

船津型花コウ閃緑岩

眠球状圧砕花コウ岩類

手　取　層　群

常願寺川礫岩・砂岩・頁岩互層

白岩川礫岩・砂岩互層

城前凝灰岩・礫岩・砂岩・頁岩互層

中世代末火成岩類

新期花コウ岩類

石英班岩・玢岩類

北　陸　層　群

岩稲類層

黒瀬谷類層　新村礫岩層

黒瀬谷類層　座主坊泥岩・砂岩・礫岩層

黒瀬谷類層　池田軽石・凝灰岩層

黒瀬谷類層　栃津川砂岩・泥岩層

黒瀬谷類層　目桑火山岩類

釈泉寺泥岩層

上滝沙岩層

呉羽山礫層
加積層群
東福寺累層
瀬戸砂泥互層
上段累層
下段累層
沖積層
第四紀火山岩類
立山火山岩類
高峰山火山岩類
自然と景観のなりたち……39
地球の誕生・生命の誕生
立山で最も古い岩石
にぎやかな生物相
北陸三県・岐阜県にまたがる手取湖
地殻の隆起変動と黒部の渓谷
氷河時代と人類

郷土のあけぼの

立山町の自然環境……49
先土器時代……51
先土器時代とその環境
先土器文化の変遷
吉峰遺跡のナイフ形石器
吉峰先土器時代の生活環境
日中上野東林のナイフ形石器
有舌尖頭器文化の遺跡
縄文文化とその変遷……59
縄文文化の特質
縄文時代草創期と郷土の遺跡
早期と郷土の遺跡
前期の文化
郷土の前期土器とその分布
前期の石器
前期の住居
前期遺跡の消長
縄文中期の文化

郷土の中期土器
縄文時代後期
郷土の後期遺跡
縄文晩期と郷土の遺跡
縄文時代の人々の生活……74
縄文化と遺物
縄文時代の衣生活と敷物
縄文文様の原体と回転のしかた
縄文時代の植生環境とその変遷
縄文時代の食生活
縄文時代の居住地の条件と郷土における分布
縄文時代の住居と集落
縄文時代の各遺跡……84
芦峅寺古屋敷遺跡
芦峅寺野口遺跡
芦峅寺不動周辺の遺跡
芦峅寺門の本割遺跡
千垣奥葉遺跡

天林南遺跡
横江中野林遺跡
岩峅野遺跡
末三賀中諸見坂遺跡
天林北遺跡
吉峰遺跡の遺構
吉峰遺跡の遺物
吉峰周辺の遺跡
末谷口遺跡
栃津川川岸の平地部遺跡
米道・坂井沢遺跡
金剛新東江添遺跡
金剛新の遺物
野町・高原方面
上段々丘西縁の地形と遺跡の分布
末上野竜ケ浜遺跡
野沢竜ケ鼻遺跡
野沢苦情地遺跡
野沢狐巾遺跡

野沢大谷遺跡
白岩川と流域の遺跡
目桑上林遺跡
六郎谷桐山遺跡
瀬戸・芦見の遺物散布状況
白岩尾掛遺跡
白岩藪の上遺跡
白岩月平遺跡
下白岩根骨遺跡
谷口百々丸遺跡
四谷尾小畑遺跡
石坂北部遺跡
福田・日中上野東縁部の遺跡
日中墓の段遺跡
墓の段遺跡の遺構と遺物
日中源兵衛腰遺跡
常願寺川扇状地末端の遺跡
利田入場の遺物散布状況
五郎丸地区の遺物散布状況

日水地区の遺物散布状況
二ツ塚遺跡
浦田新石田の遺物検出状況
若宮の遺物検出状況
弥生時代……143
弥生時代文化の概要
県下の弥生時代遺跡
立山町の弥生時代遺跡
利田仕入遺跡
日中源兵衛腰遺跡
浦田靄の気遺跡
辻西吉原遺跡
弥生時代遺物の単独出土品
弥生時代の総括
古代の郷土
古墳文化……155
古墳時代の特色

古墳時代の編年
古墳時代前期
古墳時代中期
古墳時代後期
七世期の古墳
県内の古墳と立山町の古墳
稚児塚古墳
藤塚古墳
その他の古墳
古代の神々……170
氏神・産土神
式内社と式外社
越中式内社と論社
雄山神
日置の語源と日置部
日置の日置神社と日中の日置神社
滋賀県の日置社
新川神
古代の荘園と条理……186

東大寺の荘園と条理制
大荊庄の比定
条理遺制の復原
坪の内割
条理遺制の分布と境塚
判然とわかりにくい条理制地割
新川郡川枯郷について
新川郡丈部庄
土師器と須恵器……207
土師器の変遷
辻出土の土師器
浦田西反出土の土師器
横枕遺跡
横枕遺跡出土の土師器
椀・皿類
高台付椀
甕・鍋類
吉峰出土の土師器
須恵器の特色

稚児塚付近出土の三耳壺
辻出土の須恵器
上末の窯跡群
上末窯跡群の編年
釜谷窯跡群
法光寺谷一号窯
〃　二号窯
〃　三号窯
立山町周辺の須恵器窯
吉峰出土の須恵器
利田横枕遺跡と須恵・土師
須恵器と珠洲焼

武将たちの足跡

武家政治のはじまり……233
義仲の挙兵と北陸道
砺波山の合戦
寿永二年十月宣言
北陸勧農使
文治国地頭

北陸勧農使の廃止
越中の守護
越中土肥氏の祖
土肥氏の蕃延
土肥氏の越中入国
越中入国後の土肥氏
関東の神保・椎名
畠山氏と関東武士
南北朝の争乱と桃井直常……254
鎌倉幕府の滅亡
中先代の乱と名越時兼
争乱と武士の向背
宗良親王の下向
井上俊清
桃井直常越中守護となる
直常南朝方へ
直常京都を占領
天下三分
直常再び南朝方へ

直常芦峅寺衆徒をさそう
直常両度の上京と敗戦
直常の再挙
直常の最期
桃井一族の年譜
直常の本営
守護畠山氏と越中の武士たち……280
越中守護代
畠山氏の内紛と越中国人
政長党の越中征圧
応仁の乱と神保長誠
神保・椎名の領主化
越中武士の畿内転戦
戦国大名への道
一向一揆と越後勢の進出……301
長尾能景の敗死
長尾為景の新川支配
椎名を助けた謙信

椎名康胤の寝返り
信玄に利用された椎名
謙信の越中平定
戦国時代の土肥氏……319
土肥氏の成長
土肥将真
土肥氏と弓庄
能景・為景の進攻と土肥氏
土肥二郎九郎の母の訴え
謙信と土肥政繁
弓庄城の位置
当時の城と弓庄城
弓庄城の城構え
土肥一族の城
寺嶋氏と池田城……344
寺嶋氏の出自
寺嶋氏と芦峅寺
寺嶋職定（牛介）

職定池田城に入る
職定と芦峅寺
謙信の池田城侵攻
謙信に降る
池田城
池田城主
江馬氏の進出と中地山城……365
江馬氏の出自と飛騨入国
諏訪城と属城
江馬氏と三木氏
中地山城の築城
中地山古城址
中地山城代河上氏
河上富信
江馬輝盛と謙信
湯端城と畑氏
中地山城の落城
その後の江馬氏と河上氏
八日町の合戦

輝盛死後の江馬氏
中務丞富信の最後
河上家と大川寺
江馬氏創立の諸寺
佐々成政と前田利家……418
佐々成政の出自
前田利家の出自
成政・利家の武功
利家の出仕停止
桶狭間の戦い
美濃攻略
母衣衆
利家家督を相続
一向一揆との戦い
越前府中へ
上杉勢の南下と府中三人衆
畿内転戦
本願寺の退去と越中
利家の能登領有

佐々成政の越中平定……467
成政の越中入国
成政と寺嶋氏
成政と上杉氏の攻防
土肥政繁と成政
弓庄城の明渡し
成政の越中平定と郷土
前田氏の越中進出……492
利家の能登平定と天平寺一揆
秀吉の北陸進出
末森の戦い
成政の佐良佐良越え
成政の降伏
前田氏と寺嶋・土肥氏
中世の荘園
荘園の構造……521
荘園の名

堀江庄の庄域
越中国堀江庄南方建治元年御内検張名丸の事
名主・在家
検注と内検
納租
仏神田
郷土の荘園……544
堀江庄の高木村
日置庄
高野庄
井見庄
美術・工芸
木彫仏と鋳銅仏……567
慈興上人座像（芦峅寺雄山神社・重文）
立山神立像（富山県・重文）
芦峅寺閻魔堂の仏たち
不動明王頭部
初江王坐像

泰山王坐像
司命半跏像
観世音菩薩・大勢至菩薩立像
媼尊坐像五軀
不動明王坐像
媼(うば)堂の仏たちとそのゆくえ
木造立山神像
立山の小銅仏像
大仙坊千手観音菩薩懸仏
日光坊阿弥陀如来懸仏
玉林坊阿弥陀如来坐像
蓮王寺地蔵菩薩立像
小矢部観音寺の地蔵菩薩半跏像
永平寺の地蔵菩薩半跏像
念法寺立山温泉薬師如来像
本宮寺立蔵(たちくら)神社の神像群
あちこちに祀られる立山の仏たち
立山にゆかりのある県内の矢疵の阿弥陀如来像
文珠寺武部神社の男・女神像

石彫……594

明念坂六地蔵菩薩石仏
旧爐堂前六地蔵磨崖仏
立山参道尾州藩寄進の石仏
仙人岩屋阿弥陀如来像
前立社檀玉泉院奉納狛犬
山中発見の錫杖・鏡……607
剱岳頂上発見錫杖
大日岳発見双竜飾錫杖
玉殿窟発見の藤原時代鏡
五郎丸出土銅造観世音菩薩と銅鏡……614
石造美術……615
石造美術とは
地獄谷の宝篋印塔
室堂と伽羅陀山の宝篋印塔
伽羅陀山の石仏
平地の石仏・石塔
山麓の五輪塔など

立山信仰

山霊の崇拝……637
入山禁忌
地方制度と万葉の詩人たち
たち山をめぐって……644
名称
山界
登拝信仰の成立……652
入山登拝
開山縁起をめぐって……656
縁起の成立
実在した有若
佐伯氏と大伴氏
鷹狩伝説と熊野信仰
請雨・止雨の行事
立山の開峰年代
神階の昇叙と立山神

神仏の習合
山中他界観の成立……682
地獄思想の流布
山中浄土の設定
里寺の成立……706
諸堂の造立
立山の末寺
森尻寺（上市町）
日中寺（立山町）
大伝寺（立山町）
文珠寺（大山町）
千坊ケ原寺（大山町）
岩峅寺（立山町）
岩峅寺の寺領
芦峅寺（立山町）
立山修験の成立……751
祭祀集団の発生
岩峅寺僧徒
仲宮寺僧徒

一山組織
階級
社人
越中の修験
媼尊信仰……778
仲宮媼堂
媼尊像
布橋灌頂法会
山姥とは
長野・新潟県の山姥信仰
大出（松本市）の大姥堂
八坂村（長野県）上篭の大姥大神
御山里の虫倉神社（長野県）
鬼無里の虫倉社（長野県）
青海（新潟県）上路の山姥
その他の各地の山姥
立山僧徒の布教活動……803
芦峅寺僧徒の諸国配札檀那廻り
岩峅寺僧徒の布教活動

宗教儀礼
登拝慣行の成立……839
京洛との交渉
遺物
立山参詣路の変遷……850
山中禅定路
山下の往還路
維新前後の動揺……863
仏教的思想の衰退
近代登山の夜明……879
交通機関の整備
黒部奥山について……885
信・越間の往来
上山・下山廻り
奥山への入越者

付

あとがき